校 長 室 だ よ り（No.22）

令和４年 11 月 11 日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

琵琶はビバ

芸術の秋になりました。この季節になりますと芸術・文化関係の催しが多く開かれます。11月22日（火）には、本校の音楽会を予定しています。今年は、子どもたちは、全ての学年の演奏が聴けるようにし、保護者の皆さまには、各家庭２名までですが、１、２、３年生の部と４、５、６年生の部の入れ替えで聞いていただくようにいたしました。現在の本校の感染状況等を勘案し、判断いたしました。

令和３年度音楽会

先日、初めて琵琶の演奏を聴く機会がありました。琵琶といいますと「平家物語」か「正倉院の宝物」などを連想しますが、もとは、ササン朝ペルシャ（３世紀にパルティアに代わりイラン高原を支配した国家）の時代バルバット（Barbat）という楽器がシルクロードを経て中国に伝わりビバと呼ばれるようになりました。それが奈良時代に日本に持ち帰られたと言われています。当時の琵琶が奈良の正倉院に、当時のままの姿で残されているのは有名です。

このバルバットは、ヨーロッパや西アジアにも伝わり、卵を縦に割ったような楽器のリュートやギター、アラブ音楽の中心的楽器のウードになったと言われています。日本の琵琶と違い、形を大きく変えています。

日本に伝わった琵琶は、バルバットの原型をほぼそのまま残しておりますが、日本の代表的な楽器として世界の人々に紹介されていますので、何か不思議な感じがします。琵琶は、楽琵琶として雅楽に用いられましたが、小型化した笹琵琶もつくられ、仏教の布教に多く使われました。平家物語の琵琶は、薩摩琵琶で、いずれも大きさは多少違いますが四弦四柱（しげんしじゅう）、五弦五柱のものが最も多く使われているようです。

横浜市の小学校では、薩摩琵琶の弾き語りを各地で披露している方が、音楽の特別授業を行っているところもあります。どんな学びでもそうですが、そのものの背景にあるものやことが分かった時に、その対象をより深く理解することができます。この小学校では、薩摩琵琶が「まなびの種」となり、琵琶に関係するものに興味関心が広がっていると聞きます。実物を体験し、感動することでより学習が広がったり、深まったりしていくものだと考えます。